

北州（北州千歳寿）

へ凡そ千年の鶴は 万歳楽と謡うたり 又 万代の池の 亀の甲は 三曲
にまがりて 曲輪をあらわさず へ新玉の へ霞の衣えもん坂 衣紋つ
くろう初買の 袂ゆたかに大門の 花の江戸町 京町や 背中合せの松
かざり へ松の位を見返りの 柳桜の仲の町 いっしか花もちりてつと
んと 見世清搔きの風薫る 簾か、げてほととぎす 鳴くや皐月の菖
蒲草 へあやめもわかぬひとえ物 いよし御見の文月の なき玉章の灯
籠に 星の痴話言さ、め言 へ銀河と聞けば白々と 白帷子の袖にそ
よそよ へはや八朔の白無垢の 雪白妙に降りあがり なじみ重ねて
二度の月見に逢いとて見とて 合せ鏡の姿見にへ露うちかけの菊重
ねきくの ませたる禿菊 いつか引込み突出しの 約束かたき神無月
に 誰が誠より本立の 山鳥の尾の酉の市 妹が行けば千鳥足 日本
堤を土手馬の 千里も一里通い来る 浅草市の戻りには 吉原女郎衆
が手鞠つく へちよと百ついた浅草寺 筑波の山のこのも彼面 葉山茂
山おしげりの しげきみかげに栄えゆく 四季折々の風景は 実に仙
境 かくやらん へすみだの流れ清元の 寿延ぶる太夫どの 君は千代
ませ 千代ませと 悦びを祝ふ 天びつ 和合神 日に太平の足をす、
むる あしはらの国 安国と舞ひ納む。